



PXS3000-JA-1B

# PX-S3000

## 取扱説明書（基本編）（保証書別添）

本書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。  
別紙の「安全上のご注意」をお読みの上で、正しくお使いください。

JA

CASIO

本書には、基本的な操作方法がまとめられています。より詳しい情報については、弊社ウェブサイト（QRコード、または下記URLからアクセス可）の「取扱説明書」を参照してください。  
<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3000/>



・乾電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。これは、ACアダプターと乾電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用頂くか、音量を下げてください。

### 本機でできること

#### ✓ 700種類の音色で鍵盤演奏を楽しむ

※ 本書「音色を選んで弾く」(2/4ページ)

#### ✓ 自動伴奏

※ 本書「自動伴奏をバックに演奏する」(2/4ページ)

#### ✓ 演奏を録音する

・録音内容をMIDIデータとして保存

※ 本書「MIDIレコーダーで演奏を録音する」(3/4ページ)

・録音内容をオーディオファイルとして保存

※ 本書「オーディオレコーダーで演奏を録音する」(3/4ページ)

#### ✓ レジストレーション機能

※ 本書「セットアップを登録し再現する（レジストレーション）」(3/4ページ)

#### ✓ Bluetooth接続で本機からスマートデバイスの再生音を鳴らす

※ 本書「本機をBluetoothスピーカーとして使う」(4/4ページ)

#### ✓ 鍵盤の感度を調節する

※ 本書「鍵盤を押す強弱で音量を変える（タッチレスポンス）」(2/4ページ)

#### ✓ 調（キー）を移動して演奏する

※ 本書「音の高さを半音単位で変更する（トランスポーズ）」(2/4ページ)

#### ✓ ホールシミュレーター効果とサラウンド効果

※ 本書「サウンドモード（ホールシミュレーター／リバーブとサラウンド）を使う」(2/4ページ)

#### ✓ 鍵盤を左右に分けて2人で弾く

※ 本書「鍵盤を左右に分けて2人で弾く（デュエット）」(3/4ページ)

#### ✓ 自動でアルペジオ演奏

※ 本書「アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす（アルペジエーター）」(2/4ページ)

#### ✓ 鍵盤演奏音のピッチを滑らかに変える

※ 本書「ピッチベンドホイールで音の高さを変える」(2/4ページ)

#### ✓ 2つのノブで音色やエフェクトをコントロール

※ 本書「ノブを使う」(2/4ページ)

#### ✓ MIDIデータを再生

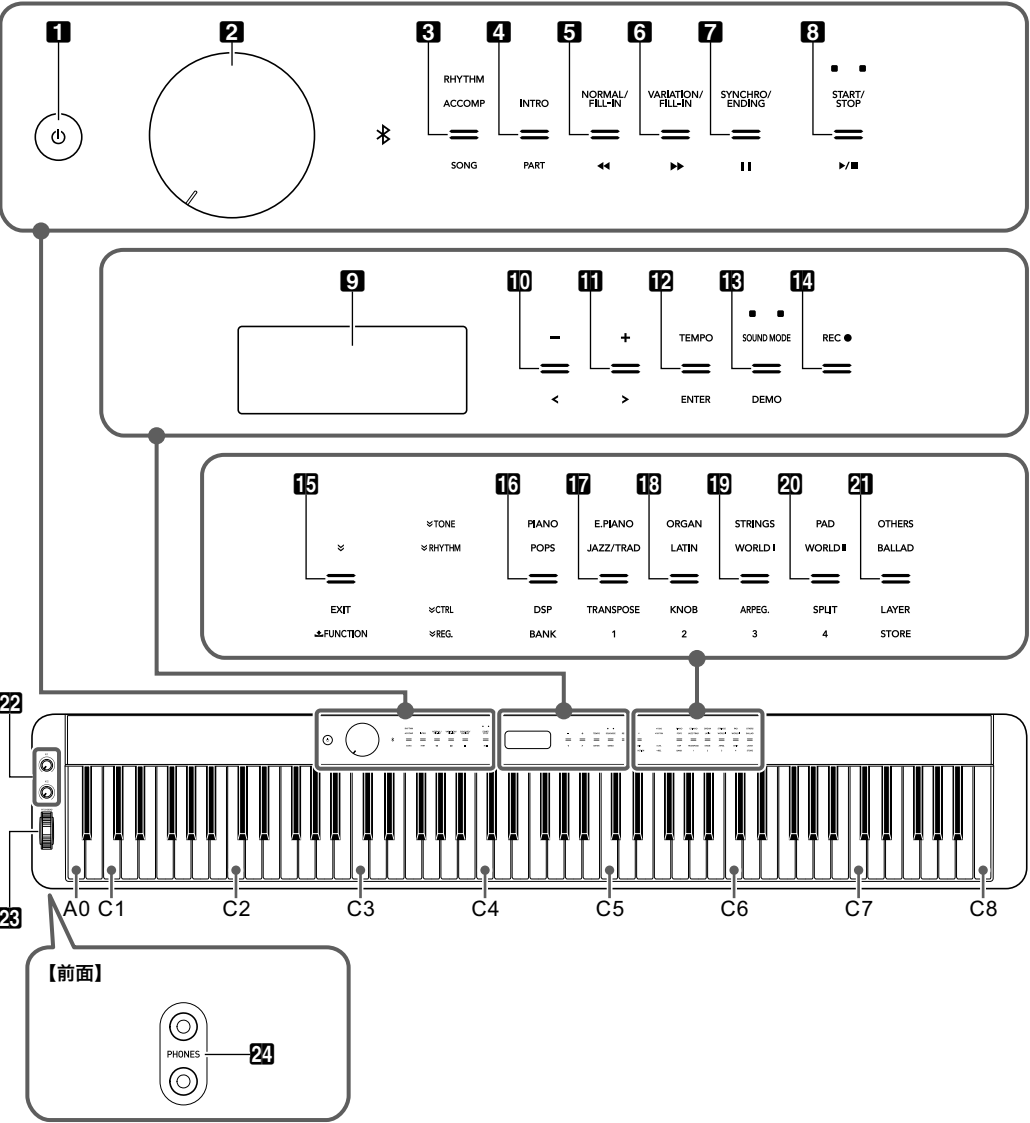
※ 本書「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」(3/4ページ)

#### ✓ スマートフォンで本機をコントロール

※ 本書「スマートデバイスとリンクする（APP機能）」(4/4ページ)

## 全体ガイド

### ■ フロントパネル



### タッチボタンについて

❶ 電源ボタンを除くボタンは、電源を入れると点灯するタッチボタンです。上記のイラストは、すべてのボタンと文字が点灯した状態を示しています。実際には、その時々で利用可能なボタンと、ボタンの機能を表す文字だけが、点灯（または点滅）します。

### ✓ ほかに、こんなことができます

- ・アコースティックピアノの音の特徴を調整（アコースティックシミュレーター）
- ・DSP、コーラス、プリリンス
- ・鍵盤の音の高さを変更（チューニング、オクターブシフト）
- ・平均律をはじめ17種類から音律を選択（スケールチューニング）
- ・本機の音を外部機器に出力
- ・パソコンと接続して演奏情報（MIDIデータ）を受送信
- ・バーサタリトーン（DTM向け音色）

※ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」、「Bluetoothスピーカー活用×オーディオ&パソコン接続ガイド」を参照

### ✓ 困ったときは

※ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

## 付属品、別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

### 付属品一覧

- 譜面立て
- ACアダプター（AD-A12150LW）
- 電源コード
- ペダル（SP-3）
- リーフ類

- ・取扱説明書（本書）
- ・カンシオ電子楽器保証書
- ・安全上のご注意
- ・アフターサービス窓口について
- ・その他

- ・欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。（ACアダプターは別売品で購入可能）
- ・付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

### 別売品のご案内

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
ペダル	SP-3 SP-20 SP-34
イス	CB-5 CB-7 CB-30
スタンド	CS-68P
ソフトケース	SC-800P
ACアダプター	AD-A12150LW

- ・カンシオ電子楽器取扱店で購入可能。
- ・別売品については、店頭の商品カタログでより詳しい情報がご覧になれます。  
<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3000/>



## 演奏の準備

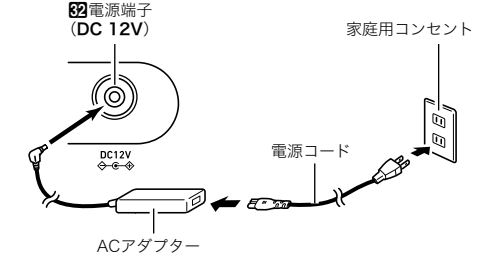
### 電源の準備

#### ■ ACアダプターを使う

本機指定のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。他のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

ACアダプターの型式：AD-A12150LW（JEITA Standard plug）

ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。



#### ❶ 重要

- ・本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ・ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。
- ・長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。

#### ■ 乾電池を使う

#### ❶ 重要

- ・乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- ・乾電池は市販のアルカリ乾電池をご使用ください。
- ・乾電池を入れるために本機を裏返すときは、次のことにご注意ください。
- － 本機の下に手を挟まないようご注意ください。けがの原因となります。
- － 不用意に倒すなどして、本機に衝撃を与えないでください。音量つまみや鍵盤が破損の原因となります。

1. 本機の裏側にある電池フタをはずします。
2. 市販の単3形乾電池、6本を電池ケースに入れます。本体の印に合わせて⊕の向きを間違えないように入れてください。
3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。

#### ■ 乾電池交換時期のお知らせ表示

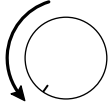
乾電池が消耗してくると、液晶画面に“LOW BATTERY”と点滅表示されます。新しい乾電池と交換してください。

#### ❶ 重要

- ・電池が消耗したまま本機の使用を続けると、突然電源が切れることがあります。この場合、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。

### 電源の入れ方、切り方

1. 電源を入れる前に、❷ 音量つまみを下図の位置まで回しておきます。



2. ❶ 電源ボタンを押して、本機の電源を入れます。電源が入ると、液晶画面に“Welcome”と表示されます。この表示が消えて音色名の表示に切り替わったら、本機が使用できる状態になります。
  - ・ ❶ 電源ボタンを軽く押しても電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。その場合は ❶ 電源ボタンをしっかりと押し直してください。
3. ❷ 音量つまみを使って、音量を調節します。
4. 本機の電源を切るには、液晶表示部に“Bye”と表示されるまで、❶ 電源ボタンを押し続けます。

#### ❶ 重要

- ・ ❶ 電源ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

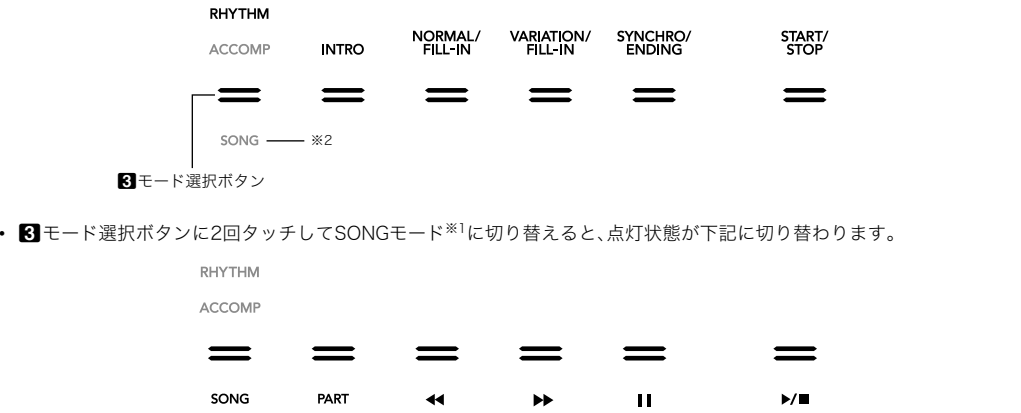
#### ■ 電源切り忘れお知らせ機能について

本機をACアダプターに接続して使用しており、何も操作せずに約6分間が経過すると、タッチボタンが順番に点灯と消灯を繰り返して、本機の電源が入ったままになっていることをお知らせします。ボタンにタッチしたり鍵盤を押ししたりすると、何らかの操作をすると、通常の状態に復帰します。電源を切り忘れていた場合は、液晶表示部に“Bye”と表示されるまで ❶ 電源ボタンを押し続けて、本機の電源を切ってください。

## タッチボタンの操作

本機の電源を入れると、タッチボタンが点灯します。

- ・ボタンやその上下の文字の点灯状態は、本機の状態に応じて変化します。例えば電源を入れた直後は、本機はRHYTHMモード※1になり、液晶画面の左側では下記のボタンと文字が点灯します。



- ・ ❸ モード選択ボタンに2回タッチしてSONGモード※1に切り替えると、点灯状態が下記に切り替わります。

このように、その時々で利用可能なボタンと、ボタンの機能を表す文字だけが、点灯（または点滅）します。

※1 これらのモードについては、「モード選択ボタンについて」をご参照ください。

※2 本書中のイラストでは、ボタン上下の点灯していない文字をグレーで、点灯している文字を黒で表しています。

#### ❶ 重要

- ・タッチボタンを操作するときは、素手の指でしっかりタッチしてください。手袋をした指には反応しません。
- ・タッチボタンが反応しない場合は、下記の操作を実行してください。下記操作により、タッチボタンの感度が高めに設定されます。

1. 本機の電源をいったん切る。
2. C8鍵盤（右端の鍵盤）を押したまま離さずに、❶ 電源ボタンを押す。

#### ■ タッチボタンの自動消灯（パネル消灯設定）について

省電力のため、一定時間ボタン操作をしなかったときに、❸ モード選択を除くボタンを自動的に消灯させる設定が可能です。

- ・ ※ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

#### ■ オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間が経過すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間（ACアダプター使用時）/6分（電池使用時）です。

- ・ コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能を無効にすることができます。FUNCTION/パラメーターの“SYSTEM” → “Auto Power Off”を“On”（オートパワーオフ機能が有効）と“Off”（オートパワーオフ機能が無効）の間で切り替えます。FUNCTION/パラメーターについては、「機能設定を変更する（FUNCTIONモード）」(4/4ページ)をご参照ください。

### ペダルを使う

#### ■ DAMPER PEDAL端子

付属のペダル（SP-3）を❷ DAMPER PEDAL端子に接続します。このペダルの機能は、FUNCTION/パラメーターの“PEDAL/WHEEL” → “DAMPER PEDAL” → “Pedal Target”を使って切り替えることができます。

設定値（表示）	説明
1. Sustain（初期設定）	ペダルを踏んでいる間は、鍵盤を離しても音の余韻が残ります。オルガンなど、鍵盤を押している間音が持続する音色では、ペダルを踏んでいる間、音が鳴り続けます。
2. Sostenuto	ペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまで音の余韻が残ります。
3. Soft	ペダルを踏んでいる間に弾いた音が若干小さくなることに加え、音が柔らかく聴こえる効果が得られます。
4. Arpeggio Hold	アルペジエーター機能がオンのとき、ペダルを踏んでいる間は、アルペジオホールドが有効になります。
5. Start/Stop	❸ START/STOPと同じ働きをします。
6. Fill-in	自動伴奏が鳴っているときにペダルを踏むと、フィルインが再生されます。

FUNCTION/パラメーターについては、「機能設定を変更する（FUNCTIONモード）」(4/4ページ)をご参照ください。

#### ■ モード選択ボタンについて

本機は、下記3つの動作モードがあります。

**RHYTHMモード**： 本機の最も基本的な動作モードで、通常の鍵盤演奏をはじめ、ほとんどの操作はこのモードで実行します。

**ACCOMPモード**： コードを伴った自動伴奏を鳴らすための動作モードです。「自動伴奏をバックに演奏する」(2/4ページ)をご参照ください。

**SONGモード**： 曲を再生するための動作モードです。「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」(3/4ページ)をご参照ください。

❸ モード選択ボタンにタッチするたびに、これら3つの動作モードの間で切り替わります。

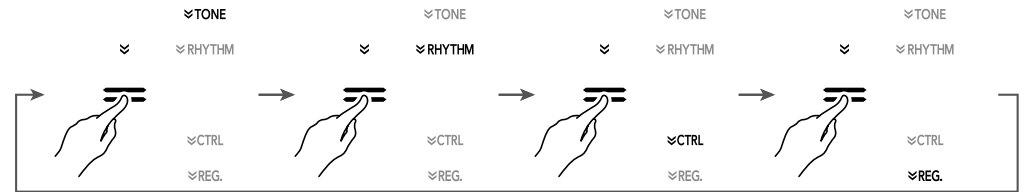


ボタンの上または下に、現在の動作モード名が点灯します。その他の動作モード名は、表示されません。

#### ■ ❷ ボタンについて

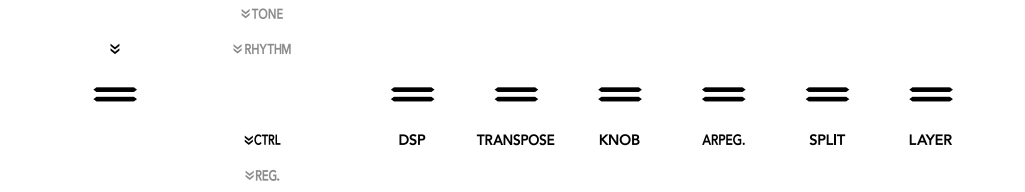
本機フロントパネルの右端6つのボタン（❷ ❸ ❹ ❺ ❻ ❼）は、ボタンの機能を4通りから選んで使います。これら6つのボタンの機能を切り替えるには、❷ ❷ ボタンにタッチします。

❷ ❷ ボタンにタッチするたびに、ボタン右側の機能名の点灯状態が下図のように切り替わります。



この機能名を点灯させると：	❷ ❷ ボタンに下記の機能が割り当てられる：
tone	音色のカテゴリー選択
RHYTHM	リズムのカテゴリー選択
CTRL	DSP選択、トランスポーズ、ノブセット切り替え、アルペジエーター／オートハーモナイズ、スプリット、レイヤー
REG.	レジストレーション機能

例：機能として“CTRL”を選んだときの❷ ❷ ボタン



## 音色を選んで弾く

本機には、数多くの音色が用意されています。1音色で演奏する以外にも、2つの音色を同時に鳴らしたり(レイヤー)、鍵盤全体を左右に分けて、高音部と低音部で別の音を鳴らしたり(スプリット)することができます。

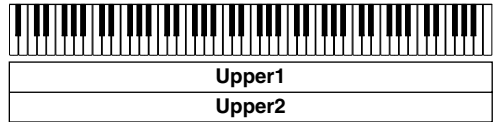
## ■ 音色の1つを選ぶには

- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼TONE”を点灯させます。  
液晶画面に、現在選択されている音色のカテゴリ名と音色名が表示されます。

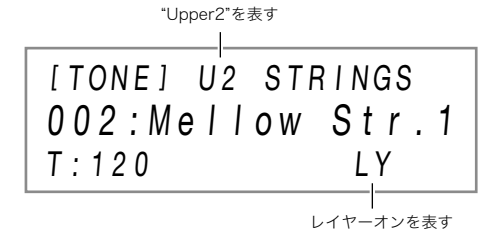


- 音色V**～**音色L** TONEカテゴリボタンを使って、音色のカテゴリを選びます。
- 音色V**、**音色L**＋を使って、音色を選びます。

## ■ 2音色を重ねて鳴らすには(レイヤー)



- 「音色の1つを選ぶには」の操作で、音色を1つ選びます(Upper1音色)。
- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼CTRL”を点灯させます。
- 音色L**AYERにタッチして液晶画面に“LY”を表示し、レイヤーをオンに切り替えます。
- 音色V**を使ってボタンの右に“▼TONE”を点灯させ、「音色の1つを選ぶには」の操作でUpper2音色を選びます。



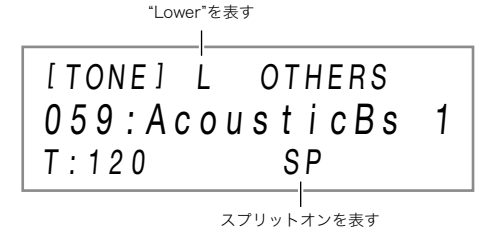
## ●メモ

- レイヤーをオフにするには、**音色V**を使ってボタンの右に“▼CTRL”を点灯させ、**音色L**AYERにタッチして液晶画面の“LY”を消します。

## ■ 鍵盤を左右2音色に分けるには(スプリット)



- 「音色の1つを選ぶには」の操作で、音色を1つ選びます(Upper1音色)。
- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼CTRL”を点灯させます。
- 音色L**PLITにタッチして液晶画面に“SP”を表示し、スプリットをオンに切り替えます。
- 音色V**を使ってボタンの右に“▼TONE”を点灯させ、「音色の1つを選ぶには」の操作でLower音色を選びます。



## ●メモ

- スプリットとレイヤーを同時に使うには、上記の操作に続いて「2音色を重ねて鳴らすには(レイヤー)」の手順2～4を実行します。
- スプリットをオフにするには、**音色V**を使ってボタンの右に“▼CTRL”を点灯させ、**音色L**PLITにタッチして液晶画面の“SP”を消します。

## デモ演奏を聴く

- 音色V**を押さえ続け、**音色L**DEMOボタンの“DEMO”の文字が点滅したら離します。
- 音色L**DEMOにタッチします。  
**音色L**DEMO(ボタンおよび“DEMO”の文字)が消灯し、デモ演奏の待機状態になります。  
液晶画面には、“1: Demo Song”と表示されます。
- デモ演奏を開始するには、**音色L**▶■または**音色L**ENTERにタッチします。
  - この後**音色L**▶■または**音色L**ENTERにタッチするたびに、デモ演奏が停止、または再開されます。
- デモ演奏の待機状態から抜けるには、**音色L**EXITにタッチします。

## 鍵盤を押す強弱で音量を変える(タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うとアコースティックピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量や音質が変化し、演奏の表現が豊かになります。

## ■ タッチレスポンスの感度を変更するには

- 音色V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。



- 音色L**<、**音色L**>を使って“KEYBOARD”を表示し、**音色L**ENTERにタッチします。
- 音色L**<、**音色L**>を使って“Touch Response”を表示し、**音色L**ENTERにタッチします。



- 音色L**←、**音色L**＋または**音色L**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。

設定値(表示)	設定内容
オフ (Off)	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
軽い (Light2) ↑ (Light1)	大きな音を出しやすい設定になり、「普通」よりもタッチが軽く感じられます。
普通 (Normal)	標準的な設定です。
↓ (Heavy1) 重い (Heavy2)	大きな音を出しにくい設定になり、「普通」よりもタッチが重く感じられます。

- 希望する設定値に変更したら、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**音色L**EXITを押さえ続けます。

## 音の高さを半音単位で変更する(トランスポーズ)

音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりします。難しい調(キー)を弾き慣れた調で弾きたい場合や、歌う人の声の高さに合わせて伴奏の調を上げ下げしたいときに便利です。

## ■ トランスポーズするには

- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼CTRL”を点灯させます。
- 音色L**TRANSPOSEにタッチします。  
液晶画面に、現在のトランスポーズ設定値が表示されます。



- 音色L**←、**音色L**＋を使って、設定値を変更します。
  - －12～＋12半音の間で変更できます。

## サウンドモード(ホールシミュレーター/リバーブとサラウンド)を使う

**音色L**SOUND MODEボタンを使って、下記効果のオン/オフを切り替えることができます。

- ホールシミュレーター/リバーブ**  
ホールシミュレーターとリバーブは、いずれも音の響きを変えるタイプのエフェクトです。  
ホールシミュレーター：透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールや建築物内の、それぞれに異なる音響特性をシミュレートします。  
リバーブ：部屋の中、あるいはホール内といった、空間の残響を再現するタイプのエフェクトです。
- サラウンド**  
擬似的な立体音響(バーチャルサラウンド効果)が得られます。この効果は、外部入力音声を本機のスピーカーで鳴らすときに適しています。

## ●メモ

- サラウンドの効果は、本機の**音色L**PHONES端子および**音色L**LINE OUT R./L/MONO端子からの出力音にはかかりません。

## ■ ホールシミュレーター/リバーブとサラウンドのオン/オフを切り替えるには

- 音色L**SOUND MODEにタッチします。
  - タッチするたびに、LEDの点灯状態が次のように切り替わります。

→	□	■	→	□	■	→	SOUND MODE
	＝		＝		＝		＝
	ホールシミュレーター/リバーブ オンサラウンド オフ(初期設定)			ホールシミュレーター/リバーブ オンサラウンド オン			ホールシミュレーター/リバーブ オフサラウンド オフ

## ■ ホールシミュレーター/リバーブのタイプを選ぶには

- 音色L**SOUND MODEを押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
- “Hall/Rev. Type”が表示されているのを確認し、**音色L**ENTERにタッチします。
- 音色L**←、**音色L**＋を使って、ホールシミュレーター/リバーブのタイプを選びます。

タイプ(表示)	設定内容
1. N.Y.Club	マンハッタンにあるミュージッククラブ
2. Opera Hall	ユニークな形状をしたシドニーのコンサートホール
3. Berlin Hall	ベルリンのアーナラ形式クラシックコンサートホール
4. BritishStadium	ロンドン郊外の大規模外スタジアム

タイプ(表示)	設定内容
5. Room 1	室内の残響感を与えるリバーブ
6. Room 2	
7. Room 3	
8. Large Room	
9. Hall 1	小規模ホールに残響感を与えるリバーブ
10. Hall 2	
11. Hall 3	
12. Stadium	スタジアムの残響感を与えるリバーブ

- 設定を終了するには、**音色L**EXITに数回タッチして、“[SOUND MODE]”の表示を消します。

## ■ サラウンドのタイプを選ぶには

- 音色L**SOUND MODEを押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
- 音色L**<、**音色L**>を使って“Surround Type”を表示し、**音色L**ENTERにタッチします。
- 音色L**←、**音色L**＋を使って、サラウンドのタイプ(タイプ1またはタイプ2)を選びます。
- 設定を終了するには、**音色L**EXITに数回タッチして、“[SOUND MODE]”の表示を消します。

## ノブを使う

2つのノブを使って、音色やエフェクトのさまざまなパラメーターを、リアルタイムで変更することが可能です。

## ■ ノブに割り当てる機能(ノブセット)を切り替えるには

- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼CTRL”を点灯させます。
- 音色L**KNOBにタッチします。  
液晶画面に、現在選択されているノブセット名が表示されます。



- 音色L**←、**音色L**＋を使って、ノブセットを選びます。
  - 選択したノブセットに応じて**音色L**ノブ(K1)、ノブ(K2)に割り当てられるパラメーターについては、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。

## ピッチベンドホイールで音の高さを変える

現在鳴っている音の音高(ピッチ)を、滑らかに上下させることができます。サクソスやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出すことができます。

- 右手で鍵盤を押しながら、左手で**音色L**PITCH BENDホイールを上下に動かします。  
ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。
  - 本機の電源を入れるときには、ホイールに触らないようにしてください。



## アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす(アルペジエーター)

アルペジエーターを使うと、鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ(分散和音)や、さまざまなフレーズが自動的に再生されます。押さえている和音からアルペジオが再生されるタイプや、さまざまなフレーズを自動的に再生するものなど、数多くのタイプから選べます。

## ■ アルペジエーター機能をオンにするには

- 音色L**手順2で**音色L**ARPEG.にタッチしたときに“AR”ではなく“AH”と表示された場合は、**音色L**ARPEG.ボタンの割り当てを変更する必要があります。FUNCTIONパラメーターの“ARPEG./A.HARMO.”→“Type Select”を“Arpeggiator”に切り替えてください。FUNCTIONパラメーターについては、「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」(4/4ページ)をご参照ください。

- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼CTRL”を点灯させます。
- アルペジエーター機能をオンにするには、**音色L**ARPEG.にタッチして液晶画面に“AR”を表示します。



- 鍵盤で和音、または単音を押さえると、現在選択されているタイプのアルペジオが再生されます。
- アルペジエーター機能をオフにするには、**音色L**ARPEG.にタッチして液晶画面の“AR”を消します。

## ●メモ

- アルペジエーターのタイプを選ぶ操作については、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。タイプの詳細は、別冊「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

## 自動伴奏をバックに演奏する

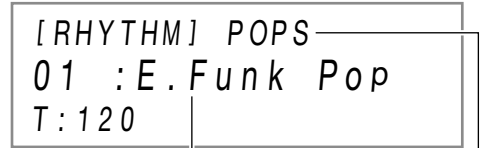
リズムを選び、コード(和音)を押すだけで、バンド演奏のような伴奏が自動的に再生されます。

## 自動伴奏を鳴らす

本機の自動伴奏は、ドラムやパーカッションによる「リズムパート」と、コード(和音)を伴う各種楽器による「コードパート」で構成されています。自動伴奏を鳴らす際は、リズムパートだけ、あるいは両方のパートを同時に鳴らすことができます。

## ■ リズムを選ぶには

- 音色V**を使って、ボタンの右に“▼RHYTHM”を点灯させます。  
液晶画面に、現在選択されているリズムのカテゴリ名とリズム名が表示されます。



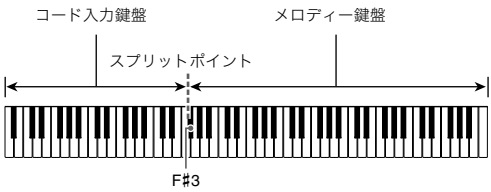
- 音色V**～**音色L** RHYTHMカテゴリボタンを使って、RHYTHMのカテゴリを選びます。
- 音色L**←、**音色L**＋を使って、リズムを選びます。

## ■ リズムパートだけを鳴らすには

- 音色L**モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”を点灯させます(RHYTHMモード)。
- 「リズムを選ぶには」の操作で、鳴らしたいリズムを選びます。  
リズムがスタートします。
  - リズムの拍子に合わせて、**音色L**START/STOPボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します(1拍目:黄色、残りの拍:赤)。
- リズムに合わせて弾きましょう。
- もう一度**音色L**START/STOPを押すとリズムがストップします。

## ■ コードを付けて鳴らすには

- 音色L**モード選択ボタンを使って、“ACCOMP”を点灯させます(ACCOMPモード)。
- リズムをスタートさせます。
  - リズムを選んでスタートさせる操作については、「リズムパートだけを鳴らすには」の手順2,3をご参照ください。
- コード入力鍵盤でコードを押さえます。  
コードが入力されると、リズムパートに加えてコードパートが鳴り始めます。

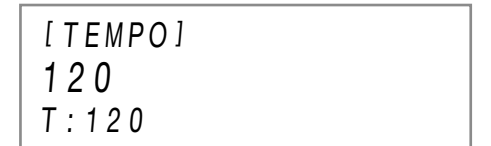


例) コード入力鍵盤の「レ・ファ♯・ラ・ド」を押さえる。  
↓  
「レ・ファ♯・ラ・ド」の和音(コード：D7)で伴奏が鳴ります。

- 左手でいるようなコードを押さえ、右手でメロディーを弾きましょう。
  - 簡単にコードを押さえられる「カシオコード」など、コード入力方法にはいくつかの種類があります。「コードの入力方法を選ぶには」をご参照ください。
- 自動伴奏を止めるには、**音色L**START/STOPにタッチします。

## ■ テンポを調節するには

- 音色L**TEMPOにタッチします。  
液晶画面に現在のテンポ値が表示されます。



- 音色L**←、**音色L**＋を使って、テンポ値を調節します。
  - テンポ値は20～255の間で設定できます。
- 音色L**TEMPOまたは**音色L**EXITにタッチして、設定画面から抜けます。

## ■ コードの入力方法を選ぶには

- 音色V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。  
FUNCTIONモードに入ります。
- 音色L**<、**音色L**>を使って“ACCOMPANIMENT”を表示し、**音色L**ENTERにタッチします。
- “Chord Mode”が表示されているのを確認し、**音色L**ENTERにタッチします。
- 音色L**←、**音色L**＋または**音色L**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。

設定値(表示)	コードの入力方法
1. CASIO Chord	カシオコード
2. Fingered 1	フィンガード1
3. Fingered 2	フィンガード2
4. Fg On Bass	フィンガードオンベース
5. Fg Assist	フィンガードアシスト
6. Full Range	フルレンジコード

- コードの入力方法に応じたコード入力鍵盤の押さえ方については、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。
- FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**音色L**EXITを押さえ続けます。

## ■ メトロノーム伴奏パターンについて

下記の伴奏パターンは、メトロノーム音だけを鳴らします(コード入力鍵盤を押さえても、ベースやハーモニーを加えた伴奏は鳴りません)。

リズム番号	メトロノーム音の鳴り方
BALLAD: 39	すべての拍でクリック音だけが鳴ります。
BALLAD: 40	すべての拍でベル音が鳴ります。
BALLAD: 41～48	2拍子～9拍子です。1拍目にベル音が鳴り、残りの拍はクリック音が鳴ります。

## 自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)

1つの曲は、イントロ(前奏)で始まり、主題に移り、間奏など変化が入ったり主題に戻ったりしながら進行し、エンディングに至ります。自動伴奏機能には、こうした曲の進行に合う、多数の伴奏パターンが用意されています。

## ■ ノーマルとバリエーション

曲の主題や間奏に使うための伴奏パターンです。1小節から数小節のパターンが繰り返されます。

伴奏パターン	鳴らすための操作
ノーマル	<b>音色L</b> NORMAL/FILL-INにタッチする。
バリエーション	<b>音色L</b> VARIATION/FILL-INにタッチする。

## ■ フィルイン

曲の途中で1小節、または2小節の短いフィルイン(変化フレーズ)を挿入する伴奏パターンです。ボタンにタッチしたタイミングでフィルインがスタートし、1小節後、または2小節後の1拍目で、ノーマルパターンまたはバリエーションパターンに戻ります。

伴奏パターン	鳴らすための操作
ノーマルフィルイン	ノーマルパターンが鳴っているときに、 <b>音色L</b> NORMAL/FILL-INにタッチする。
バリエーションフィルイン	バリエーションパターンが鳴っているときに、 <b>音色L</b> VARIATION/FILL-INにタッチする。

## ■ イントロ

曲の始めに使うための伴奏パターンです。数小節のイントロ伴奏パターンが鳴った後で、ノーマルパターンに移ります。

伴奏パターン	鳴らすための操作
イントロ	<b>音色L</b> INTROにタッチする。

## ■ エンディング

曲の終わりに使うための伴奏パターンです。数小節のエンディングを鳴らして、自動伴奏が終了します。

伴奏パターン	鳴らすための操作
エンディング	自動伴奏が鳴っているときに、 <b>音色L</b> SYNCHRO/ENDINGにタッチする。

## コード入力鍵盤で自動伴奏を開始する(シンクロスタート)

コード入力鍵盤でコードを押さえると同時に、自動伴奏をスタートさせることができます。

## ■ シンクロスタートで自動伴奏を開始するには

- 自動伴奏の停止中に、**音色L**SYNCHRO/ENDINGにタッチします。  
シンクロスタートの待機状態になり、**音色L**START/STOPボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します。
  - ここで**音色L**SYNCHRO/ENDINGにタッチすると、シンクロスタートの待機状態から抜けます。
- コード入力鍵盤でコードを押さえます。  
自動伴奏がスタートします。





## 機能設定を変更する（FUNCTIONモード）

FUNCTIONモードには、機能設定を変更するためのメニュー項目がまとめられています。メニュー項目には、ディレクトリとパラメーターの2種類があります。

ディレクトリ：複数のパラメーターを含むグループです。

パラメーター：実際に設定が可能な項目です。例えば「Touch Response」（タッチレスポンス）というパラメーターを選んでから、その設定値を変更します。

下表はFUNCTIONモードに含まれるメニュー項目の一部です。表中で「(DIR)」が付いている項目はディレクトリ、それ以外はすべてパラメーターです。

パラメーター名またはディレクトリ名	表示	設定値
サウンド(DIR)	SOUND	—
アコースティックシミュレーター設定(DIR)	ACOUSTIC SIMU.	—
ストリングレゾナンス	String Reso.	Tone, Off, 1〜4
ダンパーレゾナンス	Damper Reso.	Tone, Off, 1〜4
ダンパーノイズ	Damper Noise	Tone, Off, 1〜4
キーオンアクションノイズ	Key On Noise	Tone, Off, 1〜4
キーオフアクションノイズ	Key Off Noise	Tone, Off, 1〜4
エフェクト設定(DIR)	EFFECT	—
コーラストाइプ	Chorus Type	Tone, 1〜12
ブリリアンス	Brilliance	−3〜+3
鍵盤(DIR)	KEYBOARD	—
タッチレスポンス	Touch Response	Off, Light2, Light1, Normal, Heavy1, Heavy2
鍵盤音量	Keyboard Volume	0〜127
パート音量(DIR)	PART VOLUME	—
Upper1パート	Upper1 Part	0〜127
Upper2パート	Upper2 Part	0〜127
Lowerパート	Lower Part	0〜127
パートオクターブシフト(DIR)	PART OCT SHIFT	—
Upper1パート	Upper1 Part	−2, −1, 0, +1, +2
：	：	：

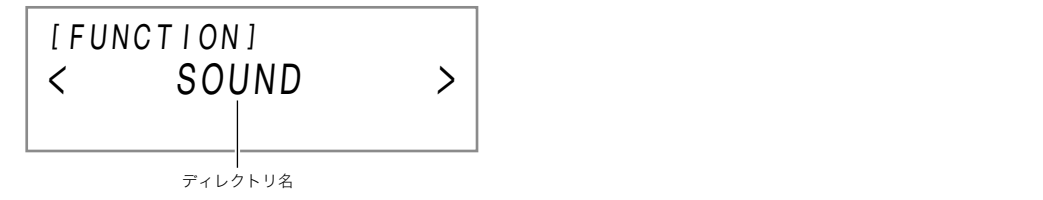
FUNCTIONモードに含まれるすべてのディレクトリとパラメーターの一覧は、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。

### ■ FUNCTION/パラメーターを変更するには

- 図V**を押さえ続け、液晶画面に「[FUNCTION]」と表示されたら離します。

FUNCTIONモードに入り、トップメニューが表示されます。

- FUNCTIONモードのトップメニューでは、1行目に「[FUNCTION]」、2行目にディレクトリ名が表示されます。ディレクトリ名は、すべて大文字で表示されます。



- 設定を変更したいパラメーターの名前を表示します。

- 例えば「Chorus Type」というパラメーターを表示するには、「SOUND」(ディレクトリ) → 「EFFECT」(ディレクトリ) → 「Chorus Type」(パラメーター)の順に階層を下りていく必要があります。次のように操作します。

(1) **図<**、**図>**を使って「SOUND」を表示し、**図ENTER**にタッチします。

- 「SOUND」ディレクトリ内に入ります。

(2) **図<**、**図>**を使って「EFFECT」を表示し、**図ENTER**にタッチします。

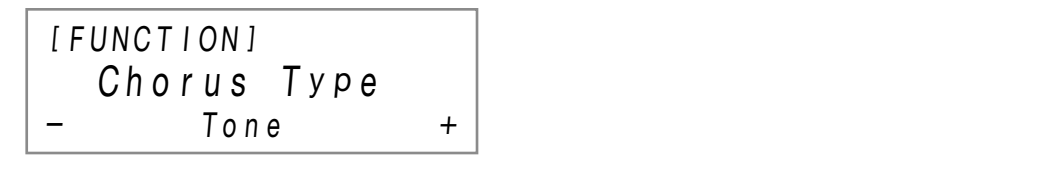
- 「EFFECT」ディレクトリ内に入ります。

(3) **図<**、**図>**を使って「Chorus Type」を表示します。

- 現在のディレクトリから抜けて1つ上の階層に戻るには、**図EXIT**にタッチします。

- パラメーター名を表示したら、**図ENTER**にタッチします。

設定値の編集状態に入り、表示しているパラメーターの現在の設定値が、液晶画面の3行目に表示されます。



- 図0**、**図+**または**図ノブ(K1)**を使って、設定値を変更します。

- 希望する設定値に変更したら、**図EXIT**にタッチして、設定値の編集状態から抜けます。

- FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から「[FUNCTION]」の表示が消えるまで、**図EXIT**を押さえ続けます。

## 本機をBluetoothスピーカーとして使う

本機はBluetoothスピーカーとして利用できます。本機とBluetoothオーディオに対応した外部機器をペアリングすることで、外部機器の再生音を本機のスピーカーから鳴らすことができます。

### 重要！

- ペアリング操作のときは、**本機と外部機器の音量を小さめに絞っておいてください。**
- 本機で鳴らした**外部機器の音**が歪んだ音で聴こえる場合は、**外部機器の音量を下げてください。**

### ■ 本機とBluetoothオーディオ機器をペアリングするには

- 図V**を押さえ続け、液晶画面に「[FUNCTION]」と表示されたら離します。  
FUNCTIONモードに入ります。
- 図<**、**図>**を使って「AUDIO IN」を表示し、**図ENTER**にタッチします。
- 図<**、**図>**を使って「BLUETOOTH」を表示し、**図ENTER**にタッチします。
- 図<**、**図>**を使って「Pairing」を表示し、**図ENTER**にタッチします。  
本機のBluetoothアイコン(🔗)が点滅し、ペアリングの待機状態になります。
  - 本機のBluetooth機能の設定がオフの場合は、自動的にオンに切り替わります。
- 外部機器のBluetooth設定画面を開き、Bluetoothがオフの場合はオンに切り替えます。
- 外部機器のBluetooth設定画面で、本機のデバイス名(CASIO Privia)を選択します。
  - ペアリングが完了すると、本機のBluetoothアイコン(🔗)が点滅から点灯になります。
  - 外部機器から出力された音が、本機のスピーカーから鳴ります。
- FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から「[FUNCTION]」の表示が消えるまで、**図EXIT**を押さえ続けます。

### メモ

- 上記の操作が必要なのは、外部機器1台につき1度だけです。その後は、本機と外部機器のBluetoothをそれぞれオンにするだけで、自動的にBluetooth接続されます。
- 本機は最大8台までのBluetoothオーディオ機器とのペアリング情報を記憶可能です（一度に接続できるのは、1台だけです）。

## 製品仕様

型式: PX-S3000BK

鍵盤: 88鍵 / デュエット / 音域変更可(−2〜+2オクターブ) / トランスポーズ: −12〜0〜+12半音 / オクターブシフト: −2〜0〜+2オクターブ

音源: 音色数: 700 / レイヤー可 / スプリット可 / 同時発音数: 最大132音 / タッチレスポンス機能(感度設定5種類、オフ) / チューニング: 415.5Hz〜440.0Hz〜465.9Hz (0.1Hz単位) / 音律: 平均律+16種類

アコースティックシミュレーター: ハンマーレスポンス、キーオフレスポンス、ストリングレゾナンス、ダンパーレゾナンス、ダンパーノイズ、キーオンアクションノイズ、キーオフアクションノイズ

サウンドモード: ホールシミュレーター(4種)、リバーブ(8種)、サラウンド(2種)  
エフェクト: コーラス(12種)、DSP(音色組み込み+プリセット100種、編集可)、アブリアンス(−3〜0〜3)

デモ曲: 6

曲再生機能(SONGモード):

MIDIモード: ダウンロード曲(ユーザー曲)再生: 10曲まで内蔵フラッシュメモリーに保存可(1曲あたり最大約320KB、表記容量は1KB=1024バイト、1MB=1024<sup>2</sup>バイト換算) / MIDIレコーダー録音曲再生 / USBメモリー上の曲データ(SMF)再生 / パートのミュート: L、R、L+R

オーディオモード: オーディオレコーダー録音曲再生 / センターキャンセル

曲の音量: 調節可(MIDIモード、オーディオモード共通)  
MIDIレコーダー: MIDIデータとしてリアルタイム録音、再生 / 曲数: 5曲 / 録音トラック数: 3トラック / 容量: 1曲あたり約30,000音符(3トラック合計) / 録音内容の保持: 内蔵フラッシュメモリー

オーディオレコーダー: オーディオデータとしてリアルタイム録音、再生 / 曲数: 99曲(ファイル) / ファイル形式: WAV形式(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ) / 最大録音時間: 1ファイルあたり約25分 / 録音内容の保持: USBメモリー

自動伴奏機能: リズム数: 200 / ファンタッチプリセット: 200種類 / オートハーモナイズ: 12種類 / 自動伴奏の音量: 調節可

ミュージックプリセット: 310種類

アルベジエーター: 100種類

メトロノーム: リズムとして組み込み / 拍子ベル音: オフ、1〜9(拍子) / テンポ範囲: 20〜255 / メトロノームの音量: 調節可(自動伴奏の音量と共通)

レジストレーション機能: 最大96セット(4セット×24バンク)

ペダル: 付属ペダル(SP-3)使用時: サステイン(オフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)、アルベジオホルド(オフ、オン)、演奏/停止、フィルインの間で切り替え可 / ペダルユニット(SP-34、別売品)使用時: サステイン(オフ、ハーフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン) / エクスプレッションペダル対応

その他の機能: オートレジューム、操作のロック

Bluetooth 接続: Bluetoothバージョン: 5.0 / 対応プロファイル: A2DP / 対応コーデック: SBC / 無線出力: Bluetooth Class 2 / 送信周波数範囲: 2402〜2480MHz / 無線最大出力: 4dBm

MIDI: 16chマルチファンキー受信

## USBメモリーを使用する

市販のUSBメモリーを使って、本機で下記のことができます。

### USBメモリー上の曲データを再生

パソコンを使ってUSBメモリーに保存した一般の曲データ(MIDIファイル)を、本機で再生することができます。

- USBメモリーに曲データを保存する操作については、「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。
- 曲データの再生操作については、「曲を聴く(MIDIプレーヤー)」(3/4ページ)をご参照ください。

### 演奏をUSBメモリーに録音

本機による演奏をオーディオデータとしてUSBメモリーに記録できます。「オーディオレコーダーで演奏を録音する」(3/4ページ)をご参照ください。

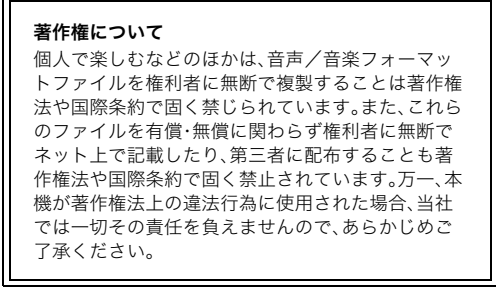
### 各種データの保存と読み込み

本機に記録した各種のデータ(MIDIレコーダー曲やレジストレーションのセットアップなど)をUSBメモリーに保存したり、本機で保存したデータや本機と互換性のあるデータ(ユーザー曲など)を読み込んだりすることができます。詳しくは、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。

## USBメモリーとUSBメモリー端子的取り扱い上のご注意

### 重要！

- USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- 以下のような場所での保管や使用は避けてください。  
USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。
  - 高温多湿、または腐食性のある場所
  - 強い静電気や電氣的ノイズの発生しやすい場所
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリー上のデータが壊れたり、USBメモリー端子が故障したりする場合があります。
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- 長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- USBメモリー端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。



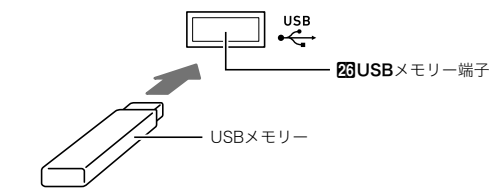
### 対応USBメモリーについて

本機は、FAT32またはexFATでフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。FAT32またはexFAT以外でフォーマットされたUSBメモリーは、Windowsのフォーマット機能で一度、ファイルシステムをFAT32またはexFATに指定してフォーマット(クイックフォーマットを除く)してください。

### USBメモリーの着脱

#### 取り付け

本機にUSBメモリーを装着するには、下図のように、USBメモリーを本機の**図USB**メモリー端子へ差し込みます。



- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。
- 本機がUSBメモリーを認識すると、液晶画面に「MOUNTING」と表示されます。表示が消えるまでは、何も操作せずにしばらくお待ちください。

#### 取り外し

USBメモリーを本機から取り外すには、液晶画面に「MOUNTING」または「Wait」と表示されていない(データをやり取り中でない)ことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜いてください。

### 注意

USBメモリーが本機にマウントされると、ルートディレクトリに「MUSICDAT」という名前のフォルダが作成されます(USBメモリーに「MUSICDAT」フォルダがない場合)。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、このフォルダを使います。

## 保証・アフターサービスについて

### 保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

### 保証期間は保証書に記載されています

#### 修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

- 保証期間中は保証書の規定に従って取扱説明書等に記載の「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

- 保証期間が過ぎているときは取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に「修理に関するお問合せ先」にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

### あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただきます」ことがあります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。また、お客様のデータが消える場合が有りますので、必要なデータは修理に出す前にお客様にてバックアップをお願いいたします。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理お申込み先」にご依頼ください。

### アフターサービスなどについておわかりにならないときは

取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

### ■ JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。

CE	Manufacturer: CASIO COMPUTER CO., LTD. 6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
	Responsible within the European Union: Casio Europe GmbH Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany www.casio-europe.com

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが一、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になる場合は、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

定格表示は製品底面ラベルに記載されています。